



埼玉西部消防局 山岳救助隊 NEWS

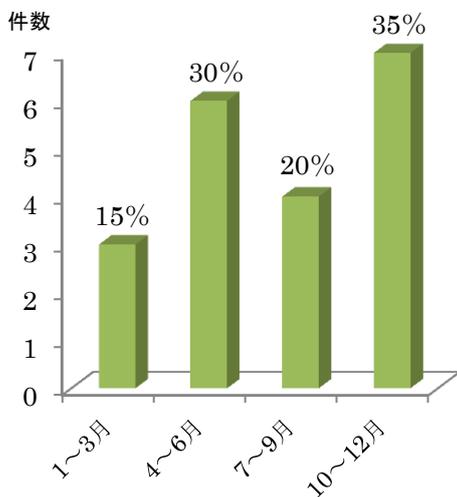
春号

平成28年
3月1日発行

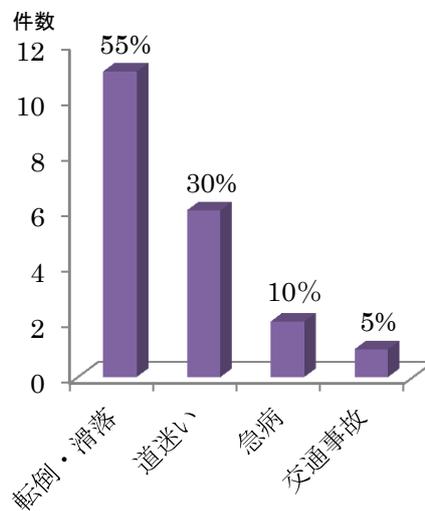
～平成27年中における山岳救助発生状況～

近年の登山ブームに伴い、経験や知識、さらには装備が不十分なまま山に向かう人が増えています。埼玉西部消防局の管内においても、昨年だけで20件の山岳救助事案が発生しました。下記のグラフは平成27年中（平成27年1月～12月）における山岳救助発生状況を、発生時期・種別・年代別遭難者数に内訳して表したものです。

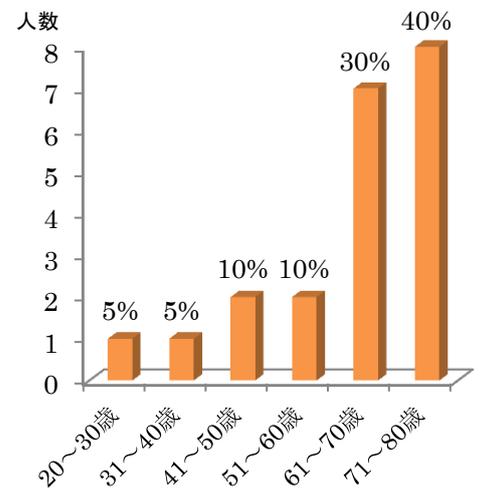
【発生時期】



【事故種別】



【年代別遭難者数】



発生時期をみると、新緑で気持ちのよい春や木々の葉が鮮やかに彩られる秋の季節に遭難事故の発生率が高いことが分かります。春や秋のような季節は寒さや暑さも緩み、四季の中で特に自然の美しい表情が見られるという醍醐味があります。しかし、登山において装備の不足や気のゆるみは、大きな事故につながる可能性があり、非常に危険です。

事故種別では、山間部での転倒や滑落が半数以上の割合を占めています。岩場や急斜面だけではなく、雨上がりでぬかるんでいる登山道や落葉が積み重なった場所などでも簡単に足を取られてしまいます。また、年代別の負傷者数では61歳以上の割合が70%と非常に高く、全国的にみても、大きな特徴となっています。

事前に気象状況を把握するとともに、ゆとりある登山計画を立てながら無理のないルートを選定することが大切です。安全で楽しい山登りをするために、山の危険に対する知識と十分な装備をしっかりと身につけましょう。



【山岳救助訓練の様子】

～春の登山を満喫するために～

寒い冬から少しずつ暖かさを増し、春の準備が進んできました。春の登山では新緑や綺麗な花々もあり、それらの景色を見て登山の魅力に惹き込まれた方々も多いのではないのでしょうか。しかし、山間部での事故発生件数の割合はこれからの時期が非常に高く、穏やかで鮮やかな色彩が広がる山肌にも、その中に足を踏み込めば常に転倒や道迷い等の危険を伴います。春の楽しいレジャーを満喫するために、予防と対策をしっかりと理解しておきましょう。



防寒対策を忘れずに

地上で天気が良く暖かくても、山間部も暖かいとは限りません。山では標高が100m高くなるにつれて、気温が0.6度下がるといわれています。休憩時など、体が冷えることで起こる低体温症には十分気をつけましょう。



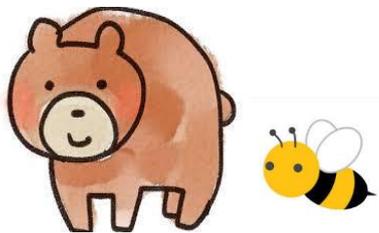
残雪には要注意



残雪期の山で重大事故の原因になりやすいのが転倒や滑落です。日差しが強く気温が上昇する日中は、雪はやわらかくなりぬかるんできます。また、日沈後や気温の急激な低下により溶けた雪が凍り、早朝や夕方には雪が固まり滑りやすくなります。雪質は気象条件や時間帯などで大きく変化するということを理解しましょう。

激しい気象の変化や不安定な天気

春の時期における気象の特徴は、非常に天候が変わりやすいということです。穏やかで気持ちのよい天候でも、急な突風や低気圧の発達による突然の降雨も珍しいものではありません。天気予報を事前に確認することはもちろん、タオルや撥水性の良い雨具などの携行も忘れずにしましょう。



危険な野生生物

春の暖かさに昆虫や野生動物も徐々に活動を活発化してきます。ダニやハチ、ムカデなどの虫だけではなく、イノシシやクマなどの遭遇も決して他人事ではありません。虫除けスプレーや熊除け鈴などの対策グッズや肌の露出を避けた服装での登山を心掛けましょう。

登山届けを提出しましょう！！



いざという時に、役に立つのが「登山届け」です。消防・警察の山岳救助隊は、提出された登山届けの情報をもとに、捜索活動を行います。登山届けは、登山口に設置してあるポストや、埼玉県警察のホームページからも提出できます。また、家族や身近な人に渡しておくだけでも大きな情報源となり早期救出につながります。

